

非稼働病棟を有する医療機関の説明資料

1. 医療機関の状況

医療機関名	総合大雄会病院				
所在地	一宮市桜一丁目9番9号				
各病棟の状況 ※直近の病床機能報告より作成	病棟名	病床機能	病床数	病床稼働率	主な診療科
	HCU	高度急性期	16	74.4%	脳神経外科、循環器内科
	ICU	高度急性期	8	57.0%	脳神経外科、循環器内科、心臓血管外科
	南5階	急性期	60	80.8%	脳神経外科、産科
	南6階	急性期	39	50.0%	呼吸器内科
	南7階	急性期	38	89.6%	循環器内科
	南8階	急性期	38	93.6%	消化器内科、外科
	南9階	急性期	38	96.3%	整形外科
	中2階	急性期	12	0.0%	小児科
	中3階	急性期	60	66.9%	呼吸器内科、血液内科、小児科
	* 中4階	回復期	30	95.2%	リハビリテーション科
	* 北DL	急性期	32	75.3%	外科、婦人科、整形外科
	* 中5階	急性期	8	0.0%	【休床】
			371	76.4%	休床8床を除く
	計 379 (休床8床を含む)				
「*」をまとめて1病棟にする予定。					
※ 令和6年度病床機能報告より作成					
病床機能は令和6年7月現在、実績は令和5年4月～令和6年3月。					
地域における役割	高度急性期・急性期機能 三次救急(救命救急センター)、小児・周産期、災害拠点、 地域医療支援、 初期臨床研修、専攻医研修				

2. 非稼働病棟の状況

病棟名	中5階
病床数	8床
非稼働開始時期	2018年1月
非稼働の理由	透析治療を担う複数名の腎臓内科医師の採用が計画通りに進まず当初計画から遅れていた。また2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症による病院経営への影響が大きく、収支計画の見直しをせざるを得なくなり、診療科の移転を含む病床機能の再編(8床の稼働含む)に遅れが生じた。さらに、大阪万博に加え、能登大地震の影響で建築資材の調達ができなくなる期間が数ヶ月に及んだ上に、働き方改革による工事関連の人材不足の影響も受けて工期も延び、工事完了が一年以上遅れる可能性も出てきている。
今後の予定	廃止 再稼働
時期	2026年4月

(以下、再稼働の場合のみ記載)

再稼働後の機能	急性期
再稼働に向けた取組	法人内の総合大雄会病院、大雄会第一病院、大雄会クリニックを跨いだ機能再編に伴う工事は2023年7月から始まっている。様々な要因で当初計画からは大幅に遅れているが、プロジェクトとして全体管理をする仕組みを立ち上げ、少しでも完了日が早くなるよう調整しながら進めている。
病棟維持の必要性	令和5年2月24日の令和4年度第3回尾張西部構想区域地域医療構想推進委員会にて、当法人より非稼働病棟の現状について説明。以下の通り、総合大雄会病院及び大雄会第一病院2025プランの変更案を承認いただいた。 総合大雄会病院は、大雄会第一病院から泌尿器科、形成外科、血管外科を移転し、高度急性期、急性期機能を集約、救急医療、悪性腫瘍等、様々な診断、治療に対して多面的かつ効率的に対応する356床の急性期病院とする。 一方、大雄会第一病院は総合大雄会病院から回復期リハビリテーション科を移転し、回復期病棟50床)、地域包括ケア病棟60床)、緩和ケア病棟6床を含む急性期病棟45床)を有する亜急性期機能を強化した155床の病院とする。 各機能を効率良く運営するために休床中の8床は必要である。